

SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 8 年 6 月 2 5 日
海洋安全保障プラットフォームの構築
プログラムディレクター 石井 正一

今般、社会情勢やこれまでの成果を踏まえつつ社会実装を加速するため、海洋安全保障プラットフォームの構築における「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」の変更を行いたい。主な変更内容は以下のとおり。

1. サブ課題 A「レアアース生産技術開発」

令和 7 年度の採鉱システム接続試験の成功を受け、令和 8 年度末から予定されている南鳥島沖水深約 6,000m の海底からのレアアース生産プロセスの実証を加速させる。

- ① 令和 7 年度の試験で回収されたレアアース泥の分離・精製に関して、適切な情報管理の下で国内企業との協議を強化することで、民間企業のノウハウを加えて本土での分離・精製設備等の整備を進める。
- ② 令和 8 年度の採鉱実証試験において、レアアース泥を採鉱し、南鳥島に運搬、島上での脱水処理を実施し、脱水などの一次処理後のレアアース泥を本土に運搬し、分離・精製を実施。その結果を踏まえ、一連の生産プロセスの経済性を評価する。

2. サブ課題 B「海洋環境影響評価システムの開発」

令和 7 年度の接続試験における海洋環境モニタリングシステムの結果を検証し、令和 8 年度に予定している採鉱試験に向けて「環境配慮ガイドライン」に新たな知見を追加し、社会実装に向けて「環境マネジメント」の手法を考案する。

3. サブ課題 C「海洋ロボティクス調査技術開発」

航行型 AUV の複数機協調群制御技術や、AUV の海中長期運用を実現するホバリング型 AUV の深海ターミナルドッキング技術を高度化する。また、令和 7 年度に研究開発した小型安価 AUV の運用実証を進める。

4. サブ課題 D「海洋玄武岩層を活用した大規模 CO₂ 貯留・固定化技術に関する基礎調査研究」

令和 9 年度上半期までに、「しんかい 6500」、「うらしま 8000」、「かいめい」による稠密な地質調査を行う。また、拓洋第 5 海山における大規模 CO₂貯留・固定化シナリオの確立を図る。さらに、国内外の民間企業との連携体制を構築し、CO₂輸送・圧入・貯留システムに関わるバリューチェーン全体の経済性評価を協働で進める。

以上